

# 池田小学校 特別の教科 道徳

大住 尚弘

対象	第3学年 桜組	単元 (題材)	著作権や肖像権について考えよう (1/1)
本時の目標	情報を活用する場合のルールやマナーについて知り、著作権や肖像権を守ることの意義について考えることができる。(思考・判断・表現)		
事前準備	○Canva ○Googleフォーム ・Canvaのプレゼンテーションで、具体的事象を分けるツールとして活用する。 ・Googleフォームで振り返り用シートを作成する。		

## I ICT活用のポイント

### デジタル時代を生き抜くために

本学級では、「一斉型授業のスタイル」が基本であった。しかし、前年を踏襲するだけでは、決まった型の中で授業を進めるため、児童の意思決定の場が少ないと感じた。そこで、現在第3学年では、授業の環境を変えていく上で必要となる情報活用能力の素地を、学校生活の中で育てている。

キーボードを打つことができるように、ローマ字の練習から始め、実際にキーボードを打つ練習、そしてClassroomやCanvaといったツールの活用を学校生活に取り入れている。ある時、児童から「何で休み時間には、インターネットで見つけた画像をCanvaで使ったらあかんの。」という声があった。また、友だちの写真を無断で使用したり、社会科見学先で写真を撮る際に、撮ってはいけない所もあるという話をしたりした場面もあった。児童が何も知らなければ、情報機器を使用する際には、インターネット上のルールや著作権などの法やきまりに抵触してしまうことがある。また、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともある。端末を日常的に使うようになった今、情報モラル教育は本学級の児童にとって身近な課題となっている。

そこで、道徳科で「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る態度」を育てることを軸に、情報の適切な取り扱いのルールやマナーを学ぶ必要があると考えた。本時では、児童が自ら正しい行動を選べるようになることを目指し、デジタル時代の前提にある情報モラルを身につけていく必要があると考えた。

### 一人一人が‘答え’をもつように

本時では、デジタル時代に欠かせない著作権や肖像権について、その意味やなぜそのような権利が存在するのかを考えていく。導入では、これまで自分が何気なく行ってきた写真撮影や画像の引用を振り返る。そして、実際に直面しそうな状況を複数提示し、「問題がないこと」「問題があること」をプレゼンテーションを利用し分類していく。ここでは、リアルタイムで友だちの分類の仕方を参考にもしながら、「なぜ大丈夫なのか」と「なぜいけないのか」など、相手の気持ちを踏まえ考えていく。

著作権や肖像権が存在する意味を理解した上で、写真や画像、動画等を適切に活用することができるようにしたい。



## 2 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の流れを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①問題定義をする。(写真や画像等を自由に使っていないかどうか)</li> <li>②事象の振り分け(個人)</li> <li>③意見をまとめる(グループ)</li> <li>④共有(全体)</li> <li>⑤振り返り</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本時の問いを提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>写真や画像を使うときに気をつけなければいけないことはなんだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、何気なく使っている写真や画像等には、実は気をつけなければいけないことがあることを伝える。</li> <li>・今回提示する事象には、必ず「問題がある」と「問題がない」ことなどに分かれることを確認する。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>②事象の振り分け               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「許可が必要な写真」と「写真や動画を使うときの2場面について、「問題がある」のか「問題がない」のかを、プレゼンテーションを用いて分ける。</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>③意見をまとめる               <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれで考えたことを、グループで共有し、意見をまとめる。</li> </ul> </li> <li>④共有               <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでまとめた意見を、全体で共有する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分け方に迷いがある児童には、他者参照を勧める。</li> <li>・分けるだけにとどまらず、できる限り理由もつけて考えるように声かけをする。</li> <li>・グループディスカッションで気をつけなければいけないことを再確認する。</li> <li>・すぐに多数決などで少数派を排除するよりも、根拠に基づいて答えを出すように声かけをする。</li> <li>・同じ分け方のグループの意見でも、分けた根拠をしっかり聞くように伝える。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・Googleフォームで振り返りをする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由に基づいて事象を分けることができたか等、振り返りのポイントを押さえる。</li> </ul>

### 授業者より

これまでの学習では、一斉授業を行い、その中で教員が個人の考えをみんなの前で発表する機会を設けることで情報共有をしてきた。その環境の改善ばかりにとらわれていては、安全で安心できるデジタル時代を生き抜くことはできない。そこで、デジタル時代に欠かせない著作権や肖像権について、その意味やなぜそのような権利が存在するのかを考えていく必要がある。

今後、SNSなど様々なデジタルツールに触れる機会が増える中で、児童たちの情報モラル育成の一助となり得ることも期待する。そして、人がそれぞれの思いを込めて創作した作品を尊重する気持ちを持ち、児童が正しい判断と行動ができるよう、教育者としてサポートしていきたいと考える。